

●設問：

文中の傍線部「深刻化するプラスチックごみ汚染を規制する条約づくり」について、あなたはどのように考えますか。文章全体の内容を踏まえて、あなたの考えを700字程度で書きなさい。

●解答例：

プラスチックごみの汚染は、気候変動や生物多様性の喪失と並ぶ地球規模の危機である。分解されないごみが海や土壌に蓄積し、食物連鎖を通じて人間の体内にも取り込まれる。見えない汚染が静かに進む現状は、私たちの生活の便利さの代償であり、これを放置すれば未来の世代への深刻な負担となる。したがって、国際的な「プラごみ規制条約」の制定は人類共通の課題である。

条約づくりは、上流である生産量の規制と、下流である再利用・再資源化の推進をどう両立させるかで対立が続いている。日本は単に「各国の事情に応じた柔軟な対応」にとどまらず、科学的根拠と技術力をもとに、全体を調和させる具体的な枠組みを提示すべきである。単純な削減よりも、再利用可能な製品設計や、廃棄物の追跡管理を重視する政策を国際的に主導することが望ましい。

また、国内では再生素材の研究開発、分別回収の高度化、企業への拡大生産者責任の徹底などを進める必要がある。発展途上国への資金・技術支援を通じて、地球全体の削減努力を支えることも日本の重要な使命である。日本が高い基準を掲げ行動すれば、他国への道しるべとなり、国際社会における信頼と存在感を高めるであろう。

さらに、企業と消費者の意識改革も欠かせない。使い捨て文化を見直し、「便利さより持続可能性」を選ぶ姿勢を育てることが、社会全体の変革を支える力となる。レジ袋有料化が示したように、小さな制度でも人々の行動を変えることができる。

環境問題は国境を越える。プラスチックごみ条約は、国家の利害を超えて連帯できるかを試すものである。日本は経済と環境の両立を実践し、未来の地球を守るリーダーとして行動する責任を負っている。(700文字)

【出題意図】

社説文の論理を正確に理解し、現実の社会問題を自らの視点から分析して考えを導き出す力を問うものである。文章読解力に加え、課題文の内容を応用して論理的に展開し、所定の分量で明確に表現する能力を総合的に評価する。